

この施設は、瀬戸内海を二千分の一に縮尺した世界一大きな水理模型で、昭和48年に完成。実際に潮の干満を起こして、瀬戸内海の流れ現象の研究に使われているものである。

この水理模型は横幅230メートル、奥行き50メートルで、瀬戸内海の多島美を一望出来る。ここでは実際に瀬戸や海峡を跨ぐ体験もでき、つい先程、見学した蒲刈島なども、もう一度訪れた様な気持ちになったり、江戸時代に廿日市港から出航した津和野藩の瀬戸内の海運を理解する上でも、大いに役立った。

残念ながら、この施設は1年半後に隣接する王子製紙に売却され、取り壊される予定で、私達には最後のチャンスであったかもしれない。

いづれにせよ、瀬戸内の古代から現代までの文化や歴史を探访する事が出たワイ(why)ワイ(why)探検隊の現地体験であった。

## 自然賛歌

### 極楽寺の自然観察(五)

妹尾 治 人

山陽道に架かる極楽寺橋を渡り、宮島サービスエリア北側から登山道と合流すると急な坂道となる。十五丁碑当りと思われる所の左側に展望台があるので寄って見よう。そこにはテーブルベンチが置かれ、宮島、江田島、似の島、遠くには灰が峰、野呂山が見られる。安芸の小富士と呼ばれる島の島とはつかいち大橋を背景とした初日の出を

拝むには格好な場所だ。(写真参照)。この場所に俯瞰図を設置し、展望台のグレードアップを図り市民の散策の場所としたいものだ。

展望台から参道に戻り、掘切状になった道を登っていくが、丁碑は十二丁を見てから十八丁碑まで見当たらない。極楽寺参道の丁碑は天明元年(一七八一年)に建てられたもので長い間には、水害、山陽道の工事などの理由で紛失したものと思われる。三十七丁碑のうち見当たらない数は十六本であり、出来ることならば募金してでも復元したいものである。十七丁辺りの所に荒蒔の滝(この滝



への案内標識がある)昔この滝で遊んだことがあると言う佐方の老人会の人達が平成18年より、佐方サービスエリア北側から平良登山道に合流する道を修復されたものである。その溪流添いのこの道は自然が豊かなので最近この道を登る人が多くなった。

さて掘切状になった平良登山道は十八丁碑の辺から岩も多くなり一段と急な坂道となって来る。極楽寺の原生林には樅、赤檜が見られるが、赤檜は十九丁碑の辺で出現する。樅の木は、この辺りでは一本も見当たらない。

二十丁碑を過ぎたところで左側の法面に千本槍(キク科)を見かけた。千本槍は不思議な植物で春早く、五糎程の赤味がかかった可憐な花を咲かせ、秋には閉鎖花といって花を付けないまま、いきなり花茎を伸ばしてタンポポに似た綿毛を付けた実を風にとばす。花無しで実を結ぶとは、どういう仕組みなのか知りたいものだ。またこの千本槍の住み分けも不思議で沢山の種子を風で散らして蒔くので他の地にも芽生えても良い筈だが道

中でこの場所では見られない。

二十一丁碑は見当たらないが、そのかわりに速谷神社に行く道標（写真参照）がある。この石碑には、昭和10年3月1日、橋本兄弟建之とあり、この道を降りて行くと、昭和59年に試掘された高尾山遺跡や女性剣豪役者不二洋子の墓所もある。さらに進むと上平良に出て速谷神社に通じている。

この辺の植生は赤松の二次林で枯れた松の大木に代わって、コナラ、アラカシ、カクレミノ、クロキ、コシアブラ、クヌギ、クリ、リヨウブ、ヤシヤブシ等の雑木林となっている。

二十三丁碑は見当たらないが、甘日市の文化財の地図によると左手の谷で弥生土器が沢山発見された「極楽寺二十三丁遺跡」があるので谷へ降りて見た。（次号に続く）

どの道を 登るも

楽し極楽寺

（自然観察指導員）